

9 長寿命化修繕計画の実現に向けて

区では、維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図りつつ、持続可能なインフラメンテナンスを実現するために、定期点検の結果を踏まえ、橋梁ごとの具体的な対応方針を設定し、コスト縮減や事業の効率化につながるよう「集約化・撤去」「新技術等の活用」については、次回定期点検（令和7年度）に合わせ、令和7年度を短期目標とします。

●橋梁の集約化・撤去

無名橋において、利用形態や周辺環境等を確認しながら、集約・撤去について検討を行い、無名橋における対応策について、東京工業大学を始めとした関係機関と協議を進めながら決定していきます。

●新技術等の活用

P22「5.4 新技術等の活用」では、国土交通省がとりまとめた点検支援技術性能カタログ(案)等を基にした、画像計測技術やモニタリング技術等の活用の検討を挙げています。

次回定期点検（令和7年度）では、区が管理する全38橋に対し、新技術の活用検討を行い、従来技術（大型橋梁点検車）よりも1橋あたり1百万円のコスト縮減を目標に、より安全に効率的な橋梁の管理を進めていきます。